

ボードレス・エリア記者クラブ発足

ボランティアらを中心としたメンバーが自らの言葉で発信

以身伝しんぶん



第一回編集会議を行うメンバーたち

美術・地域・福祉の垣根を超えて

本紙は、ボードレス・アートミュージアムNOMAに集まったボランティアのサポートを中心としたボードレス・エリア記者クラブの新聞、その名も「以身伝しんぶん」です。

私たち、ボードレス・エリア記者クラブは、「ボードレス・エリア近江八幡をみんなでつくるプロジェクト」として開催されている展覧会「以”身”伝心」からだから、はじめてみる」の実施に合わせ、NOMAや近江八

幡の魅力を中心に、美術・地域・福祉など垣根を超えたボードレスな記事を書き、発信していきます。今後、この新聞では、記者クラブメンバーたちの投稿を掲載していきます。皆様にこの町とNOMAの魅力が随時、お届けしていきます。どうぞお楽しみに。写真で新聞の書き方についてレクチャーを頂いているのは、今回の記者クラブにアドバイザーとしてご協力いただいている京都新聞社経営企画局読者センターより、北村哲夫センター長です。

(デスク)

展覧会「以”身”伝心」開催



展覧会「以”身”伝心」からだから、はじめてみる」は9月22日より開催されています！ご来場の際は、目が見えない人も見えない人も、一緒に展示を楽しんでいただけます。

点字表示はもとより、作品について書かれている文字の読み上げ・作者へのインタビューなど音声コンテンツにより、豊かな想像力をもって「鑑賞」を「体感」してみてくださいね。

(記者：冬木)

耳や手で作品を体感

「以身伝心」では、「五感で楽しむ」ことの実現のため、新しい試みがなされています。

「触図」の展示もその一つ。入館してすぐ左側、E氏の病室での記録。自分の身体感覚を、詳細な頭部の図解と、几帳面な筆による文で綴った、ノート1ページ程の大きさの作品である。NOMAでは、そのうちの一枚を

拡大して壁に展示。手前には音声案内、点字での解説も用意されている。その横に並べて展示されているのが、頭部の図解の「触図」である。字のごとく、図解を「触って味わう」ために、特殊な用紙にコピーしたもの。それぞれの線が厚みを持ち、浮き上がって見える。視覚障害の方々に伝えるための試みであるが、暗眼者も「触って味わう」ことへの興味をそそられる。目で鑑賞した作品を、今度は

触って創って 繋がる

(記者：辻純)

この展覧会では、手で触れたり作者の絵画技法を体験すること、まさに「からだから、はじめてみる」。体感型作品の展示もある。

作品へのアクセス方法

NOMAでの受付を終え、体を反転させた。奥の壁面には大きな紙がかかっている。その紙には何やら番号を伴った人間頭部の複雑な図が縦に並んでいる。そしてその右側には几帳面に書かれた文字の群れ。作者であるHさん自身の体起こる違和感や異変を自己流に解釈し、書き(描き)上げた綿密な記録だそう。今回の企画展にはほかにも7名組の作品が紹介されている。美術館での「紹介」というと、文字を想像する方も多いのではないだろうか。本展では文字だけでなく点字や触図、音声コンテンツなどによって作品や作者の紹介がされている。また実際に作品に触れて楽しむこともできる。より多くの人が複数の感覚で作品を楽しめるように、との



作者の情報を説明する点字



触ることのできる作品

ります。草薨陵太さんの絵の技法で自由に描いていただけるスペースも用意されています。徳山彰さんのノスタルジー溢れる作品



工夫がなされているのだ。障害のある方、ない方、お子さんや日本語を使わない方など多くの人がいろいろな方法で作品にアクセスできる本展覧会。あなたほどの感覚で鑑賞する？ (記者：相馬)

(記者：冬木)



ボードレス・エリア記者クラブInstagram更新中